

ヨーク市とヴィボー市の共同プログラム「Immersive Assembly Vol.2」が実施されました

Immersive Assembly とは

日本語で「没入型の集会」を指す「Immersive Assembly」は、イギリス・ヨーク市が実験的に実施しているアーティスト・イン・レジデンスプログラムです。

2021年にヨーク市単独の事業として始まりましたが、文化的パートナーシップの促進のため、2022年5月、デンマークのヴィボー市との連携事業として Vol.2 が実施されました。

Immersive Assembly Vol.2 「Bodies and Geometry」

この事業は、アーツカウンシル・イングランドやデンマーク大使館を含む様々な団体の支援のもと、実地とオンラインのハイブリッドで開催されました。

Vol.2のテーマは、「Bodies and Geometry（体とジオメトリー）」です。

現実と仮想において、新たなテクノロジーが体とジオメトリー（形状）との関係にどのような影響を与えるかを考えることを目的として、設定されました。

学ぶ、共有する、ネットワークを作る、そして遊ぶ。これらを目的に、イギリスのアーティスト4名とデンマークのアーティスト2名がこのプログラムに参加しました。

参加者は2022年5月から数カ月間、ヨーク市やヴィボー市に滞在しながら共同制作を行い、9月にヴィボー市で開催される「ヴィボー・アニメーション・フェスティバル」で発表するための作品を制作しました。

共同制作品

作品①

作品名：Mind-Body-Map（心と体のマップ）

作者：Rozi Fuller（英国）、Humira Imtiaz（デンマーク）、Davide Ghiraldini（デンマーク）

概要：パフォーマンスアートをコンセプトとした作品です。「私たちは身体を持っているか？私たちは、自分の身体そのものであるか？」を問いかけています。

作品②

作品名：ALT+R

作者：Lydia Cottrell（英国）、Aaron Howell（英国）、Philip Piaget（デンマーク）

概要：ALT+Rは、デジタルな自分を受け入れる、伝統的で時代遅れの形のウェルネス・トリートメントに挑戦するデジタル・スパ・スタートアップです。AIが導く瞑想などを通して、観客のデジタルな自分自身を活性化させることを目的としています。

プロジェクトや制作品の詳細は、こちらをご覧ください。(外部ページ・英語)

<https://mediale.org.uk/immersive-assembly/vol-1/>

<https://mediale.org.uk/immersive-assembly/vol-2/>